

中路 教義 先生の記事が掲載されました。

久野病院

回復期リハビリテーション



整形外科副部長 中路 教義 氏

リハビリテーション病棟は、家庭復帰や寝たきり防止を目的とした病棟です。医師や看護師のほか、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師など、多職種が情報を共有して患者さんに合ったプログラムを作成しながらリハビリを行います。

Q リハビリの目的は。
A まず、手術や障害を負っ

ことにより、最終的に家庭復帰や社会復帰を目指します。例えば、入浴や段差、トイレの動作などを確認しながら、それらに即したリハビリを行います。高齢者の場合、認知症などでリハビリ自体が難しい方もおられますが、ご家族を交えて話し合いをし、患者さんにとってより良いリハビリを考えていきます。

どこまで改善するか、どのような障害を抱えて生活をするかなどを短期間で検討、解決する必要がある。そのためには、医師、看護師のみならず、そのほか多くの専門職が患者さんに関わることが重要です。多職種がチームを構築してカンファレンスなどを行うことにより、情報の共有と連携を行い、チームとしての共通目標を定め、この目標達成に向かっていきます。今後は病院内のみならず、地域との連携を密に行い、患者さんがより安心して暮らせる地域生活を送れるようにつなげていくことが大切になると思います。

家庭復帰や寝たきり防止目的

Q 回復期リハビリテーションとは。
A 脳血管障害や骨折などの手術や急性期の治療を受けて病状が安定し始めた1〜2カ月以降の状態を回復期といいます。

この時期に集中的なリハビリを行うことが最も効果的であるとされています。回復期リハビリは、さまざまな機能低下を回復させる

Q チーム医療の大切さについて。
A 回復期の医療において、